

ライフケアガーデン熱川 別館

症 例 概 要 利用者：80代 女性 要介護1

病名：認知症

都内出身。18歳から57歳まで大手物産会社に勤務し、退職後伊豆へと移住。結婚歴なく遠方の従兄弟とは疎遠。2022年4月、自宅で転倒し右手首橈骨を骨折。受傷部位を固定する必要性や通院・リハビリの目的を理解できず、医療保険証を度々紛失するなど認知症状の進行が明らかとなる。近隣の友人が生活を支えていたが困難となり、成年後見人である司法書士から相談を受けたことで2023年3月、当施設入居となる。入居後はリハビリをはじめとする職員の提案を拒否し居室に閉じこもる生活が続いていたが、生活歴を活かした関わりにより笑顔で過ごされるようになった事例。

内 容

入居当初、氏は居室でテレビを見ては眠る生活を繰り返し、自ら居室を出ることはほとんどなかった。骨折部位である右手首の拘縮改善のため理学療法士がリハビリを試みたが「自分には必要ない」と拒否。活動量の低下から筋力・バランス能力の低下も認められ、さらなる身体機能の低下が懸念される状況であった。

職員は後見人から氏の生活歴や価値観の聞き取りを行った。その結果、氏は日本ウォーキング協会に所属し、休日には30km以上歩くほど歩くことが好きで、定年後は伊豆の自然に魅力を感じ移住したことが判明した。

職員は季節に応じてクロスカントリーコースや海岸線などへのウォーキングを企画。伊豆の景色を楽しみながら身体を動かし、地域の方と挨拶や会話を交わすことで自然と職員との会話や笑顔が増えていった。また、交流の中で子ども好きであることが分かり、職員の子どもと触れ合う機会を設けると満面の笑顔で話し掛け、交流を楽しまれた。

好きだったことを通して運動の習慣、地域の方や職員との交流が生まれ、理学療法士によるリハビリも自然と受け入れるようになった。リハビリを続けたことで右手首拘縮は改善し、レクリエーションの的当てに参加できるようになると持ち前の運動神経を発揮して見事1位に輝くなど、自信を取り戻す姿がみられた。現在では身体を動かすレクリエーションの中心的存在となり、地域の方と交流できる外出を楽しみに生活されている。

生活歴を活かした関わりにより、身体機能の改善だけではなく社会とのつながりや生活意欲の向上につながった本事例を、キラキラ介護賞として推薦する。

【多職種の関わり】

【看護・PT】骨折部や身体機能を継続的に評価し、安全に外出や歩行が行えるよう支援。楽しみながら身体を動かせる方法を提案し、身体能力の維持向上につなげた。

【介護】生活歴を踏まえた外出を企画し、傾聴を重ねながら信頼関係を構築。季節を感じられる地域散策や交流機会を設け、外出への意欲向上と役割づくりにつなげた。

【施設管理】安全に外出できるよう送迎や歩行ルートの確認を行い、安心して活動できる環境整備に努めた。

【食養】活動量の増加に合わせて水分・栄養状態を確認し、食事を通して健康維持と活動意欲の継続を支援した。

【営業・事務】後見人から生活歴や趣味、価値観を丁寧に聞き取り多職種へ共有。季節ごとのウォーキングスポットや地域資源を提案し、その人らしい生活の実現を支援した。